

第三章 旅順口第一次攻撃

第一節 攻撃前聯合艦隊ノ動作

東郷聯合艦隊司令長官ハ明治三十七年二月六日朝ヨリ、麾下各戰隊ヲシテ逐次佐世保軍港ヲ出發セシメ、自ラ第一戰隊(一)三笠(二)朝日(三)富士(四)八島(五)ヲ率非港外ニ出テタル後、令ヲ下シテ各艦ニ對敵ノ諸準備ヲ完成シ、警戒ヲ嚴ニセシメ、十海里ノ速力ヲ以テ豫定ノ航路ヲ進航シ、翌七日ノ黎明韓國南岸九針岩附近ニ達ス、偶、右舷前方約五海里ニ一商船ノ東航スルモノアルヲ認メ、龍田ニ命シテ之ヲ檢セシメタルニ、露國航業貿易汽船會社所有船「ロシヤ」號ナリシヲ以テ、直ニ之ヲ拿捕シ、同艦ヲシテ八口浦附近ニ引致シ、更ニ臺中丸ヲシテ之ヲ佐世保ニ曳カシム、第一戰隊ハ尙進シテ、同日午後一時二十分シシテ、グル島附近ニ到リシニ、第二戰隊既ニ先著シアリ、乃チ第一戰隊ハ同島ノ東南方ニ、第二戰隊ハ西方ニ、相共ニ漂泊シツ、他隊ノ來ルヲ俟ツ、已ニシテ同二時第三戰隊モ亦來リ合セリ、

是ヨリ先キ第一戰隊ニ先立チテ、六日午前十一時佐世保軍港ヲ出發セシシ

二戰隊(一)出雲(二)吾妻(三)八雲(四)常磐(五)磐手及ヒ通報艦千早ハ、上村第二艦隊司令長官指揮ノ下ニ、十海里ノ速力ヲ以テ豫定ノ航路ヲ進行シ、午後一時同司令長官ハ令ヲ麾下ノ各艦ニ下シテ、對敵ノ諸準備ヲ完成シ、警戒ヲ嚴ニセシメタルカ、夜半ニ至リ、一汽船ノ追ヒ越シテ西走スルモノアルヲ認メ、千早ヲシテ之ヲ追ハシメタルニ、同艦ハ翌七日天明所安島附近ニ於テ之ニ追及シ、先發セル我カ金州丸ナルヲ確認シテ歸隊セリ、午前七時更ニ一汽船ノ反航スルニ會シ、再之カ臨檢ヲ千早ニ命シタリシニ、此ノ時恰モ後方遙ニ航行セル第一戰隊ヨリ一艦ノ之ニ向フモノアルヲ認メタルヲ以テ、千早ヲ招還ス、此ノ汽船ハ即チ「ロシヤ」號ナリ、尋テ上村司令長官ハ、商船臨檢ニ關スル特約信號ヲ定メ、之ヲ麾下ノ各艦ニ示シ、午後一時五分シシテ、グル島ノ西方ニ達シ、以テ第一戰隊ニ合セリ、

又最先ニ佐世保ヲ出發セル第三戰隊(一)千歲(二)高砂(三)笠置(四)吉野ハ、第一艦隊司令官出羽海軍少將ノ指揮下ニ於テ、第一、第二、第三、第四、第五驅逐隊、第九、第十四艇隊及ヒ水雷母艦春日丸、同日光丸、給炭船金州丸ト共ニ警戒ヲ加ヘ、十海里ノ速力ヲ以テ豫定ノ航路ヲ進ミ、七日未明韓國南西岸珍島ノ南方ニ達シテ假泊シ、驅

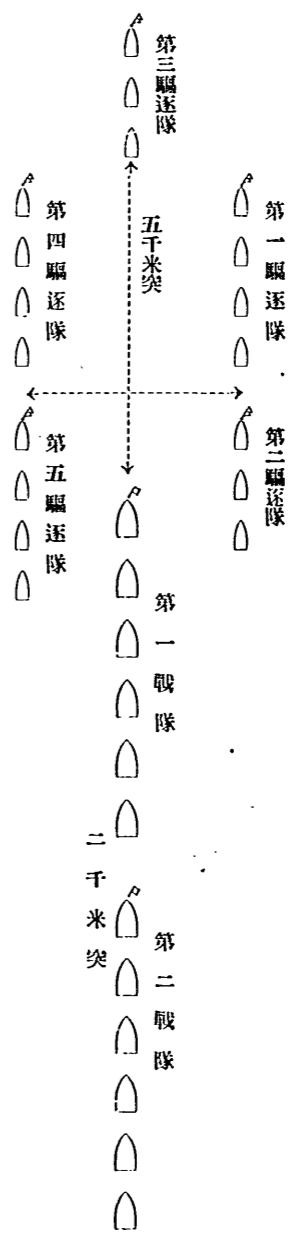
逐隊及ヒ艇隊ハ茲ニ豫定ノ如ク、母艦ヨリ炭水補充ニ著手セシカ、午前六時三十分母艦日光丸將ニ其ノ錨地ニ達セントスルトキ、前路ニ於テ驅逐艦階ノ艦首ヲ左ニシテ漂泊セルヲ認メタルヲ以テ、其ノ艦尾ヲ通過セントシテ、右方極度ニ轉舵セシニ、階ハ之ヲ以テ反テ己ノ艦首ヲ横キラントスルモノト思惟シ、急遽後退シタルヲ以テ、兩者相近ツキ、日光丸ハ直ニ全速力ヲ以テ後退シタリト雖モ及ハス、遂ニ其ノ艦首ヲ以テ階ノ最前煙突ノ稍前方左舷側ニ、後方ヨリ約六十度ノ角度ヲ以テ衝突シ、爲メニ階ノ第二區及ヒ前艙室ナル第三區滿水シ、船體ノ前部ハ上甲板線下約一尺ニ至ルマテ沈降スルニ至レリ、是ニ於テ日光丸ハ直ニ階ヲ右舷側ニ接著シ、大索ヲ艦底ニ廻シテ本船ニ釣上ケ、大砲水雷其ノ他ノ諸具ヲ總テ船内ニ移シテ沈降ヲ防キ、職工ヲ送リテ防水ニ從事セシメタリ、出羽司令官ハ報ヲ得テ、直ニ日光丸艦長海軍中佐木村浩吉ニ向ヒ、其ノ艦ハ階ヲ横附ケノ儘安全ナル錨場ニ至リ、工作船ノ來ルマテ保護スヘシ、若シ保護ノ見込ナキニ至ラハ、階ヲ接島附近ノ淺所ニ乗上ケシムルノ手段ヲ取ルヘシト命シ、又第二驅逐隊司令海軍中佐石田

一郎ニ命スルニ、階ヲシテ豫定ノ行動ヲ止メ、應急修理ニ從事セシムヘキ旨ヲ以テシ、且其ノ現狀ヲ東郷聯合艦隊司令長官ニ電報シテ、工作船ノ派遣ヲ請求セリ、尋テ出羽司令官ハ豫定ノ如ク、第四戰隊ト合同シテ、仁川方面ニ向フヘキ第九艇隊第十四艇隊及ヒ特務船ト別レ、第三戰隊及ヒ各驅逐隊ヲ率テ、午前十時假泊地ヲ發シ、孟骨水道ヲ北上シテシングル水道ニ達シ、第一戰隊ニ合セリ、

第二、第三戰隊既ニ第一戰隊ニ合セシカ、之ニ次テ第四戰隊モ亦來會シ、(第四戰隊ノ行動ハ前章ニ詳ナリ)又豫定ノ如ク五日午後佐世保ヲ出發シテ韓國入口浦ニ至リ、海底電線接續ニ著手セシ明石モ、任務ヲ了ヘ相前後シテ來リ會シ、伊東軍令部長ヨリ發セル、在芝罘森海軍中佐ノ報告ニ係ル旅順港外ニ於ル露國艦隊ノ碇泊位置、(第一篇第二章第三節戰)并ニ在仁川村上千代田艦長ノ報告ニ係ル同港在泊ノ露國其ノ他ノ外國軍艦ニ異狀ナキ旨ノ二電報ヲ持參セリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ、左ノ命令ヲ發ス、

一、敵情依然タリ

二、聯合艦隊ハ豫定ノ行動ヲ續行ス
三、シングル水道ヨリ第五集合點ニ至ル今夜ノ航行序列左圖ノ如シ



四、第三戰隊ハ單獨先發明八日午前八時小青島ノ南西微西約三十哩ノ地點ニ達シ四周ヲ偵察シ敵ノ有無ヲ定メ本隊ニ歸リ報スヘシ

五、天佑ヲ確信シテ我カ聯合艦隊ノ大成功ヲ遂ケヨ(聯隊機密 第二二三號)

此ノ際七發島ノ南方ニ當リ、一汽船ノ南航スルアリ、第一戰隊ヨリ龍田ヲ派シタルニ、第二戰隊ヨリモ吾妻之ニ向ヒタルヲ以テ、龍田ハ歸隊シ、吾妻之ニ追及シテ、其ノ露國商船「アルグン」號ナルヲ報シタルヲ以テ、上村第二艦隊司令長官ハ之ヲ拿捕シ、千早ヲシテ八口浦ニ引致セシメ、所在先任官ニ引渡シタル後、速力ヲ増加シテ明朝迄ニ小青島ノ南方ニ到リ、若シ能ハサル時ハ、牙

山ニ入り命ヲ待タシメ、同時瓜生第二艦隊司令官ニ向ヒ、千早牙山ニ到ラハ、第二戰隊ノ來著迄、同官ノ指揮下ニ屬セシムル旨ヲ信號ス、既ニシテ午後四時十六分ニ到リ、第三戰隊ハ命令ニ基キ先發シ、同五時ヨリ速力ヲ十二海里トナシ、同六時三十分ヨリ十三海里ニ増速シ、韓國西岸クリツフオールド列島外ヲ經テ、小青島附近ニ向ヒ、第四戰隊、淺間、第九、第十四艇隊、春日丸、金州丸及ヒ陸軍運送船ハ午後四時三十分出發シテ仁川ニ向フ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、豫メ其ノ隊ノ成功ヲ祝ストノ信號ヲ以テ、第四戰隊以下ヲ送り、尋テ第一、第二戰隊及ヒ各驅逐隊ヲシテ豫定ノ序列ニ占位セシメ、同五時シングル島ヲ出發シ、翌八日拂曉巡威島ノ東方ニ達ス、豫テハ艦載水雷艇ヲ同處ニ留メ置クノ計畫タリシモ、前夜來ノ北西風未タ歇マス、猶激浪アルヲ以テ之ヲ中止シ、速力ヲ十三海里トナシテ前進ヲ續行セリ、是ヨリ先キ、吾妻ハ牛耳水道ニテ拿捕船「アルグン」號ヲ千早ニ渡シ、急行艦隊ヲ追ヒタルカ、茲ニ至リテ追及シ、午前九時ヨリ固有ノ位置ニ復シ、又千早ハ本隊ニ合スル能ハスシテ牙山ニ入レリ、

第三戰隊ハ同日午前八時頃命令ノ如ク、小青島ノ南西微西約三十海里ノ位置ニ達シ、其ニ附近ヲ偵察シタルモ、敵ノ隻影ヲ認メザリシカ故ニ、同十時三十分敵ナキ旨ヲ旗艦三笠ニ電報シ、同十一時第一、第二戰隊及ヒ第五驅逐隊ト合同シテ、本隊ノ左方約三千米突ニ位置シ、是ヨリ各隊旅順口方面ニ向ヒテ、豫定ノ針路ヲ航進セリ、

午後三時三十分東郷聯合艦隊司令長官ハ、各戰隊ノ此ノ夜取ルヘキ豫定航路ニ關シ、左ノ訓令ヲ發ス、

戰隊ハ今夜ノ豫定航路ヲ變シ午後六時迄前進シ同時ヨリ速力ヲ十海里ニナシ左十六點ニ正面ヲ變シ午後八時右八點ニ正面ヲ變シ午後十時北八十五度西ニ變針午前五時北十五度西ニ變針シ老鐵山ニ向フ針路ノ變換ニハ信號ヲ用ヒス其ノ時刻ニ至ラハ先頭隊ヨリ逐次變針スルモノトス序列ハ第三戰隊ヲ先頭トシ第一第二戰隊之ニ次ク各隊ノ間隔ハ三千米突トス

斯クテ聯合艦隊ハ、午後六時圓島ノ南東微東約三十海里ノ地點ニ達スルヤ、

東郷聯合艦隊司令長官ハ、驅逐隊ニ左ノ信號ヲ爲シ、以テ進撃ヲ命ス、

豫定ノ如ク進撃セヨ、一同ノ成功ヲ祈ル、

第一驅逐隊司令海軍大佐淺井正次郎ハ、之ニ答ヘテ曰ク、確ニ成功ヲ期スト、是ニ於テ第一、第二、第三驅逐隊ハ旅順口ニ向ヒ、第四、第五驅逐隊ハ大連灣ニ向ヒ、相共ニ急進ス、各艦ハ登舷禮式ヲナシ、祝聲ヲ三唱シテ以テ此ノ壯行ヲ送ル、是ヨリ各戰隊ハ、逐次十六點ノ正面變換ヲ行ヒ、豫定ノ針路ヲ進メリ、時ニ海霧夕陽ヲ鎖シ、海上波無クシテ航行頗ル平穩ナリ、夜ニ入り各艦二直哨兵ヲ配シテ警戒ス、時々無線電信機ニ意味不明ナル感應アリ、

第二節 驅逐隊ノ夜襲

劈頭第一、敵艦隊ヲ襲撃スヘキ任務ヲ有スル、各驅逐隊司令中ノ先任者タル第一驅逐隊司令淺井海軍大佐ハ、二月七日未明珍島附近ニ於テ、炭水補充ノ際、各隊司令ヲ白雲ニ招集シテ、協同動作ニ關スル規約ヲ定ムルコト左ノ如シ、

一、速力信號掲揚ハ左ノ規定ニ從フ、

時機	白晝敵ニ會合シタルトキ			白晝敵ニ會合セサルトキ			夜間		
	速力	節	信 號 方 法	速力	節	信 號 方 法	速力	節	信 號 方 法
微速力	一三	速力信號一箇	微速力ニ掲揚	四	速力信號一箇	微速力ニ掲揚	四	艦尾信號	①
半速力	一七	同	半速力ニ掲揚	八	同	半速力ニ掲揚	八	同	②
全速力	二三	同	原速力ニ掲揚	不定	其ノ都度艦尾燈ニ於テ同信號ヲ掲揚シ其ノ速力ヲ示ス	不定	艦尾燈ヨリ順次後續艦ニ旨令傳達ス	不定	同
備考	二五	同	二箇全速力ニ掲揚	不定	同	不定	同	不定	同

夜間ニ於テハ敵ニ會合スルト否トヲ問ハズ艦尾燈ヲ以テ規定ノ速力信號法ニ據リ速力ヲ指示ス

一 襲撃終テ第一集合點ニ退航スルトキハ場合ニヨリ艦尾燈ヲ全滅スルモ妨ケナシ

一 第一集合點ニ歸著スル前ニ味方ノ驅逐艦タルコトヲ明示スルノ目的ヲ以テ可成鮮明ナル大軍艦旗ヲ檣頭檣ヲ付セルモノハ信號竿頭及ヒ艦尾旗竿ニ掲揚スルモノトス

一 聯隊機密第二六號戰鬥中ノ通則第五項檣頭ニ①②二燈ヲ連掲スルコト

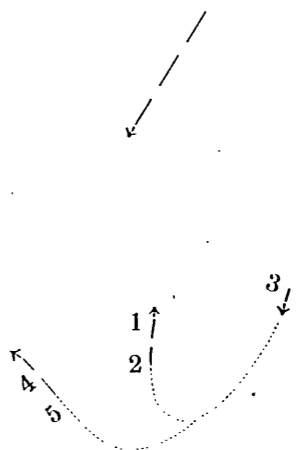
トハ驅逐隊ニ於テハ之ヲ廢シ前項同様軍艦旗ヲ掲揚シテ之ニ代フルモノトス

一 艦名ノ白字ハ襲撃ノトキ黑色ニ塗ルモノトス

一 驅逐隊ト驅逐隊ノ會戰スル場合ニ於ル運動法ヲ左ノ如ク規定ス

一 ノ驅逐隊カ砲戰中ニアル他ノ驅逐隊ヲ援護セントスルニ當リ丁字形戰法ヲ用フルト乙字形戰法ヲ用フルトハ援護隊ノ任意トス但丁字形戰法ニ依ラントセハ標信號一旒ヲ掲ケ乙字形戰法ニ依ラントスレハ標時旗一旒ヲ援護隊ニ於テ豫メ掲揚シ以テ其ノ意志ヲ被援護隊ニ知ラシムルモノトス夜間ニ於ル援護ニハ乙字形戰法ヲ用ヒサルコトトシ常ニ被援護隊ノ通跡ヲ進ムモノトス

丁字形乙字形何レノ戰法ヲ執ルニ拘ラス援護隊ハ被援護隊ノ針路前ニ延長スル運動ヲ避クルモノトス



又第一驅逐隊ノミニ關シテハ左ノ規約ヲ定メタリ、

- 一砲戦ノトキハ距離閉縮ノコト
- 一晝間ハ甲種水雷夜間ハ乙種水雷ヲ使用スルヲ例トシ場合ニヨリ甲種水雷ヲ用フ故ニ兩種水雷ヲ用意スヘシ
- 一砲戦ヲ主トスルトキハ實用「ピストル」ヲ取除キ置クヘシ
- 一襲撃ノ際ハ水雷發射ノ時ニ至ルマテ「ピストル」ニ安全針ヲ挿入シ置クヘシ
- 一探海燈ノ點滅ハ司令艦ニ倣フコト
- 一襲撃用意

艦尾速力舵柄燈ヲ悉ク出スコト然ル後之ヲ一齊ニ滅シタルトキヲ以テ襲撃働作ニ移ルモノトス但夫マテハ三隊共ニ一線トナリ追従ス

一砲戦ヲ始メタルトキハ味方隊ハ識別ノタメ「ヤーダーム」ニ鮮明ナル種類ノ旗旒ヲ連掲スルコト

一第一集合點ハ圓島ノ風下凡一海里ノ處トス午前四時迄待合スヘシ

一若シ襲撃中破壊セラレタル艦ハ赤燈一箇ヲ檣頭若クハ竿頭ニ掲クルコト此ノ時其ノ艦員ヲ救ハントスルハ司令若クハ艦長當時ノ決斷ニアリ

一第二集合點巡威島ニ入港一泊ノコト

若シ八日午後五時ニ至リテ天候不良等ノ爲メ襲撃ニ進行シ能ハスト認ムルトキハ巡威島ニ入港スルコト爰ニ於テ九日午前ニ入港スヘキ

金州丸或ハ春日丸ヨリ炭水ヲ補充スルコト

尋テ同司令ハ旅順口ニ向フヘキ第一第二第三驅逐隊ノタメニ更ニ襲撃行動ヲ左ノ如ク豫定セリ、

二月八日午後七時圓島ヨリ十二節ノ速力トナシ旅順港外ニ至リテ靜ニ敵ノ状態ヲ偵察シ八日正子ヨリ九日午前一時四十分(推定月出時)ノ間ニ適當ナル襲撃時機ヲ測リ後白雲ヨリ襲撃實行ノ規約信號ヲナスヘシ是ニ於テ各隊ハ旅順港外浮標ヲ中心トシ第一驅逐隊ハ左ニ第二第三驅逐隊ハ右ニ逆列小隊縱陣ノ如キ隊形ヲ以テ竝行シ第一驅逐隊ハ左轉シ第二第三驅逐隊ハ右轉シテ各敵艦ヲ襲撃シ午前四時迄ニ第一集合點(圓島ノ風下約一海里)ニ集リ隊列ヲ整ヘテ第二集合點(巡威島錨地)ニ至リ十日牙山ニ向ハントス而テ此ノ襲撃行動中敵ノ驅逐艦ニ會シテ砲撃ヲ蒙ルカ如キコトアラハ第二第三驅逐隊ハ之ニ應戰シテ敵ヲ外方ニ牽制スルヲ務ムヘシ

既ニシテ二月八日午後六時ニ至リ各艦隊ト別ル、ヤ第一第二第三驅逐隊ハ豫定ノ速力ニ一海里ヲ加ヘ十三海里ノ速力ヲ以テ進航シ午後七時五十分圓島ノ南東約五海里ノ位置ニ達セシ頃大連灣ニ進撃スヘキ第四第五驅逐隊カ左舷前方ヨリ其ノ隊列ヲ横過セントスルニ會シタルヲ以テ淺井第

一驅逐隊司令ハ依然航進スルノ甚危険ナルヲ思ヒ暫ク速力ヲ減シテ其ノ航過ヲ俟チ隊列之カ爲メニ稍混亂ヲ來セシカ同八時四十分ニ至リ第四第五驅逐隊ノ航過シタルヲ見テ茲ニ隊列ノ整備ヲ令シ逐次縱列ヲ作り漸次原速力十三海里ニ復シテ老鐵山高角ニ向針ス同十時三十分右舷艦首約二點ニ當リテ探海燈ノ明滅スルアリ同司令以爲ヘラク是旅順港外ニ於ル敵艦隊ノ警戒セルモノナラント各隊一層戒飭ヲ加フ同十時五十分頃ニ至リ前方濛ヤトシテ濃霧ノ將ニ來襲セントスルカ如キ狀アリ此ノ際恰モ左舷前方ニ當リテ燈火ノ移動スルヲ發見シ暫時微速力ニ減シテ其ノ動靜ヲ窺ヒシニ漸ク近邇スルニ及ヒ敵ノ驅逐艦二隻ノ北東方ニ航スルモノナルヲ覺リシヲ以テ第一驅逐隊ハ之ヲ避ケンカ爲メ少シク右方ニ進出シ尙其ノ發見スル所タランコトヲ恐レテ艦尾燈ヲ滅セリ第二驅逐隊モ亦之ヲ認メテ警戒ヲ嚴ニシ前續隊ニ準シテ一時停止スルヤ二番艦艙ハ右舷側ニ出テ尋テ回頭シテ一番艦雷ニ近接セシカ故ニ雷ハ急速注意ヲ喚呼シ兩艦共ニ全速力ヲ以テ後退シタリト雖モ其ノ效ナク遂ニ艙ハ其ノ艦首ヲ以テ雷ノ

右舷側錨坐ニ衝突セリ、雷ハ損傷輕微ナリシヲ以テ、再航進スルヲ得タリト雖モ、錨ハ艦首損害ノ爲メ、之ニ續ク能ハス、三番艦電モ亦之カ爲メ前進ヲ妨ケラレ、遂ニ雷ヲ見失フニ至リ、茲ニ第二驅逐隊ノ各艦ハ分離ノ姿トナリ、第三驅逐隊モ亦之カ爲メニ全ク前續隊ト相失スルニ至レリ、第一驅逐隊ハ敵ノ驅逐艦ヲ右方ニ避ケタル後尙暫ク之ヲ東南方向ニ認メタリシカ、彼ハ遂ニ我カ隊ヲ發見シ得サルモノ、如クナリシヲ以テ、原針路ニ復シテ進行セリ、既ニシテ淺井司令ハ午後十一時八分老鐵山ノ燈光ヲ認メ、之ニ依テ艦位ヲ確メ、同五十分敵ノ探海燈ヲ北ニ西ニ見ルニ及ンテ、我カ位置ノ略豫定襲撃航路上ニ在ルヲ信シ、乃チ北微西ニ變針シ、微速力ヲ以テ進ム、時ニ敵ノ探海燈ハ屢回轉シテ遠近ヲ照シタリシカ、遂ニ回轉ヲ止メテ我カ隊ヲ照射シ、或ハ我ヲ發見シタルヤヲ疑ハシメシト雖モ、少焉ニシテ更ニ他方ニ轉ス、時正ニ九日午前零時十二分ナリ、是ニ於テ淺井第一驅逐隊司令ハ好機漸ク近ツケルヲ知り、其ノ麾下白雲朝潮霞、曉ニ襲撃用意ヲ命シ、尋テ襲撃ノ規約信號ヲナス、同零時二十分ニ至リテ、愈敵ニ接近シ、暝暗ノ間ニ

朦朧トシテ敵艦ノ配列スルヲ認メ、尋テ其ノ舷燈煙突等ニヨリ稍艦形ヲ識別シ得ルニ至リタルヲ以テ、既ニ乙種水雷ノ有效距離以内ニ入り、凡六百米突ナルヲ信シ、豫定ノ如ク靜ニ左舷ニ回頭セリ、而テ敵ハ尙之ヲ覺ラサルモノ、如ク、全線寂トシテ眠レルニ似タリ、先頭ニ立チタル白雲ハ機正ニ熟セルヲ知り、同二十八分三煙突ノ敵艦ニ向ヒ、中央ニ旋回セル前部發射管ヨリ、網切器ヲ附シタル乙種水雷一發ヲ放チ、同三十二分更ニ二煙突ノ敵艦ニ向ヒテ、後方八度ニ旋回セル後部發射管ヨリ、甲種水雷ノ發射ヲ終ヘ、直ニ取舵一杯ニ轉シ、全速力ヲ以テ南方ニ退航ス、而テ發射セル水雷二箇此ノ際共ニ爆發セルヲ認メタリト云フ、二番艦朝潮ハ白雲ノ航跡ヲ進ミ、午前零時二十分頃其ノ針路ノ前方ニ當リテ、二橋三煙突ナル「レトウ」非ザン「及ヒ」ベレスウ「エー」ト型艦ノ横ハルヲ透視シ、靜ニ發射ノ準備ヲ整ヘテ好機ヲ俟チ、同二十七分頃白雲取舵ニ轉シテ敵ノ隊列ニ併進シ、尋テ襲撃スルヲ見ルニ及ンテ、等シク取舵ニ轉シ、同三十二分「ベレスウ」エー「ト」型艦ヲ距ルコト約八百米突ナルヲ測リ、右舷前方三十度ニ旋回セル前部發射管ヨリ、甲種水雷ヲ放チ、更

ニ進航シテ「レトウ非ザン」型艦ニ肉迫シ、是ト相距ル五百米突以内ナルヲ推測シ、右舷正横ニ旋回セル後部發射管ヨリ、乙種水雷ヲ發射シタリシニ、前者ノ結果ハ知ル能ハサリシト雖モ、後者ハ正ニ命中シタルモノ、如ク當時後部ニアリシ乗員ハ、「レトウ非ザン」ノ探海燈非常ニ震動スルト同時ニ、水柱ト火煙ノ奔騰スルヲ確認セリト云フ、是ニ於テ朝潮ハ直ニ全速力ヲ出シ、取舵ヲ極度ニ轉シテ南々東ニ退航ス、敵ハ漸ク我カ襲撃ヲ覺知シテ、各艦俄ニ騷擾シ、艦上燈火ヲ提ケテ三々五々東西ニ馳走シ、其ノ狀狼狽ヲ極ムルモノ、如クナリシカ、幾モナク發砲ヲ開始シ、同三十五分敵彈一發朝潮艦上ヲ掠メ去レリ、三番艦霞ハ午前零時三十分微速力ニ減シ、發射用意ヲ整へ、前續艦ニ倣ヒテ回頭スルヤ、敵探海燈ノ照射ヲ受ケ、既ニ發見スル所トナリシト雖モ、未タ砲撃ヲ受ケス、同三十三分「バルラーダ」型艦ノ東鄰ナル二檣三煙突ノ軍艦ニ向ヒ、距離約五百米突ト推測シ、前方十八度ニ旋回セル後部發射管ヨリ、甲種水雷ヲ發射シ、尋テ正横ニ旋回セル前部發射管ヨリ、約四百米突ト推測スル「バルラーダ」型艦ニ向ヒ、網切器ヲ附シタル乙種水雷ヲ發射スルヤ、敵ノ

艦側ヨリ水煙ノ模糊トシテ揚レルヲ見タリト云フ、敵モ亦之ニ應シテ發砲シ、二三ノ彈丸艦側ニ落ちタルモノアリシト雖モ、損害ナク、全速南方ニ向針シテ退却スルヲ得タリ、殿艦曉ハ初メ命ニヨリ襲撃用意ヲ整へタル後、前續諸艦ニ從ヒ、速力ヲ減シテ、靜ニ敵ノ隊列ニ近接シ、午前零時三十三分全ク發射ノ準備ヲ遂ケ、取舵一杯ニ轉シテ、艦首ヲ西ニ定ム、此ノ間屢敵探海燈ノ照射ヲ受ケシト雖モ、未タ砲撃セラレ、ニ至ラス、同三十五分右舷前方ニ當リテ、二檣三煙突ナル大軍艦ノ横ハルヲ見、其ノ「レトウ非ザン」ナルヲ推知シ、漸ク之ニ近ツキテ、其ノ距離約六百米突ナルヲ推測シ、右舷正横ニ旋回シタル前部發射管ヨリ、甲種水雷ヲ發射シ、尙西駛シテ、其ノ西鄰ナル二檣三煙突ノ軍艦ニ近ツキ、同距離ナルヲ推測シテ、右舷正横ニ旋回セル後部發射管ヨリ、乙種水雷ヲ發射ス、其ノ結果正確ナラスト雖モ、前回ノモノハ高ク水煙ヲ立テ、後者ハ大ナル火焰ヲ水際ニ發シテ爆發シタルモノ、如シト云フ、此ノ間敵ノ砲火ヲ蒙ルコト數次ニ及ヒシモ、皆艦上ヲ飛越シテ一モ命中セス、襲撃終リテ回頭シ、全速力ヲ以テ前續諸艦ヲ追ヒテ南方ニ退航ス、第二驅逐隊雷

艦電ハ既記ノ如ク、八日午後十一時全ク相分離シタルヲ以テ、司令石田海軍
 中佐ハ獨リ乘艦雷ヲ以テ、第一驅逐隊ノ後ヲ追ヒ、豫定ノ針路ヲ疾走シテ、旅
 順口沖ニ向フ、九日午前零時五分敵ノ照映スル探海燈、及ヒ老鐵山ノ燈光等
 ニ依リ、其ノ艦位ヲ推定シテ正北ニ變針シ、微速力ニ減シテ進行中、屢敵探海
 燈ノ爲メニ照サレタリト雖モ、幸ニシテ發見セラル、コトナク、靜ニ發射ノ
 準備ヲ整ヘ、同三十分幽ニ敵ノ艦列ヲ認ムルニ及ンテ、半速力トナシ、幾モナ
 ク原速力ヲ出シテ之ニ近接シ、同三十五分三煙突二櫓ノ一艦ニ近ツキ、約一
 千米突ナルヲ推測シテ、急ニ右方ニ回頭シ、左舷正横後七度ニ旋回セル前部
 發射管ヨリ網切器附乙種水雷ヲ發射シ、引續キ又同一艦ニ向ヒテ、正横後五
 度ニ旋回セル後部發射管ヨリ甲種水雷ヲ放チ、全速力ヲ出シテ、東微北ニ定
 針シ、尋テ面舵一杯ニ取り退却ス、時ニ「アスコリド」型ノ敵艦探海燈ヲ照射シ
 テ砲撃スルコト數回ニ及ヒシカ、彈丸皆頭上ヲ飛過セリ、

第三驅逐隊ハ薄雲、東雲、漣ノ順序ヲ以テ、司令海軍中佐土屋光金ノ指揮ノ下
 ニ、第一、第二驅逐隊ニ續行シテ旅順口沖ニ向ヒシカ、八日午後十時五十分其

ノ左舷前方約二千米突ト推測セラレ、距離ニ當リテ、航海燈ヲ點セル敵ノ
 驅逐艦二隻ヲ認ムル際、遂ニ第一、第二驅逐隊ト相失スルニ至レリ、而テ此ノ
 時恰モ北西方ニ當リテ、探海燈ヲ點セルモノアリ、其ノ必ス敵艦ナルヘキヲ
 推斷シ、暫時行進ヲ停メテ其ノ動靜ヲ窺ハントスル際、第二驅逐隊電及ヒ艦
 ノ二艦接近シ來ルニ會シ、電ヨリ傳聲器ヲ以テ報スルトコロアリ曰ク、艦ハ
 故障アリ、大速力ヲ出ス能ハサルヲ以テ、他艦ト同行スルヲ得ス、本艦ハ雷ト
 相失セリ、今ヨリ貴官ノ指揮ヲ受ケテ進退スヘシト、此ノ時第三驅逐隊ノ殿
 艦漣モ亦其ノ僚艦ト相失シテ其ノ所在ヲ詳ニセザリシヲ以テ、土屋司令ハ
 乃チ電ニ命シテ之ヲ殿艦ト爲シ、襲撃ニ要スル速力及ヒ規約等ノ大要ヲ口
 達シ、先ニ認メタル探海燈光ニ向ヒテ徐行シ、漸ク近接スルニ及ヒ、其ノ照映
 ニヨリ、附近ニ多數ノ艦船輻輳スルヲ確認ス、時正ニ正子ナリ、是ヨリ各艦特
 ニ嚴密ナル警戒ヲ加ヘ、周ク發射ノ準備ヲ整ヘ、靜ニ回頭シテ其ノ方向ニ航
 シタルニ、十數隻ノ敵艦密集碇泊シ、其ノ中央ニ在ル一艦ヨリ頻ニ探照スル
 モノアルヲ認メタリ、而テ前續諸隊ハ逐次襲撃ヲ了リテ、已ニ退却ノ途ニ就

ケルモノ、如ク、敵ノ全艦隊探海燈ヲ照シテ砲撃ヲ之ニ集中スルヲ見好機逸スヘカラストナシ、原速力十二海里ヲ以テ突進ス、午前零時三十七分先頭ニ進ミタル司令乗艦薄雲ハ、敵艦隊ノ舷窓其ノ他ノ燈光ニ依テ明ニ船體ノ形狀、煙突ノ數等ヲ認識シ、其ノ隊列ニ近ツクコト約千五百米突ナルヲ推測シテ、發射用意ヲ整ヘ、同三十九分左舷ニ回頭シテ敵ノ隊列ニ竝航シ、右舷中央後三度ニ旋回シタル前部發射管ヨリ、ダイヤー型艦ニ向ヒテ甲種水雷ヲ放チ、尋テ前方五度ニ旋回セル後部發射管ヨリ、其ノ西隣ナル一軍艦ニ向ヒテ、甲種水雷ノ發射ヲ終ヘ、二番艦東雲モ亦薄雲ニ續キテ敵艦ニ接近シ、同四十二分約千五百米突ノ距離ヲ推測シ、甲種水雷二箇ヲ發射ス、時ニ敵艦我ヲ照射シ、猛烈ナル砲火ヲ注キシモ、命中セス、薄雲ハ左舷ニ、東雲ハ右舷ニ、回頭シテ共ニ南東方ニ退航スルヲ得タリ、殿艦電ハ二艦ノ退航スルニ先タチ、兩者ノ中間ヨリ敵ノ砲火ヲ冒シテ突進シ、同四十五分敵艦列ヲ距ル約千五百米突ナルヲ推測シテ、右舷ニ回頭シ、左舷前方三十度ニ旋回セル前部發射管ヨリ、ダイヤー型巡洋艦ニ向ヒテ、網切器附甲種水雷ヲ發射シ、尋テ後部

水雷ヲ發射セントシタルモ、二回不發ノ爲メニ果サス、照準ノ時機ヲ失シタルカ故ニ、同五十五分再レトツ井ザン型戰艦ニ近ツキ、後部發射管ヲ左舷正横ニ旋回シ、約千五百米突ヲ推測シテ甲種水雷ヲ發射シ、直ニ圓島ニ向ヒテ退却ス、此ノ間敵彈屢艦側ヲ掠メタリシモ、幸ニシテ中ラス、時ニ敵ノ驅逐艦二隻、左方約百米突ヲ隔テ、敵艦ノ所在地ニ向フヲ認ム、
第三驅逐隊ノ殿艦タリシ漣ハ、曩ニ午後十一時頃、前續艦カ各其ノ艦尾燈ヲ滅シテ敵ノ驅逐艦ヲ避ケタル際、遂ニ是ト相失セシカ、此ノ時恰モ前方ニ二箇ノ白燈ヲ認メ、前續艦ナラント推定シ、是ニ向ヒテ直進セシニ、稍近ツクニ及ンテ、全航海燈ヲ點セル敵ノ驅逐艦二隻ナルヲ發見シ、直ニ轉針反航シテ僚隊ヲ搜索シタルモ會セス、而テ旅順口方面ニハ探海燈ノ數愈増加スルヲ見、乃チ單獨敵艦隊ヲ襲撃セント決心シ、是ヨリ旅順口燈臺ニ向ヒテ進ミ、推定敵艦隊ノ中央ヲ約北微東ニ見ルニ及ヒ、黃金山頂ニ向針シテ航行ス、敵ハ屢探海燈ヲ迴轉シテ我ヲ照射セシト雖モ、遂ニ發見セラレス、偶敵ノ總探海燈一齊ニ中天ヲ照シ、又赤燈ヲ掲揚セル艦船二隻アルヲ見ル、此ノ機ニ乘シ

テ漸次艦首ヲ敵方ニ轉シ、九日午前一時二十五分敵艦隊ノ約中央ニ位置セ
ル「ポルター」型戰艦ニ近ツキ、約七百米突ノ距離ヲ推測シテ、後部發射管ヨ
リ網切器附乙種水雷ヲ發射シ、尋テ前部發射管ヨリ同器附甲種水雷ヲ放チ、
右舷ニ回頭シテ南東方ニ退航ス、敵ノ探照發砲共ニ烈シカリシト雖モ、幸ニ
損傷ナシ、

第二驅逐隊ノ二番艦龐ハ、曩ニ雷ト衝突シテ「ステム」ヲ損傷スルヤ、進行中艦
首ニ泡沫ヲ起シテ甚潛行ニ便ナラス、爲メニ他艦ノ襲撃ヲ妨害スルノ虞ア
リ、且損所ノ状態高速駛走ニ堪ヘ得ルヤ否ヲ確ムルノ必要アリシヲ以テ、列
外ニ出テ、仔細ニ損所ヲ檢シ、試ニ十二海里ニ對スル回轉ヲ以テ、數分間航
走セシニ、操舵意ノ如クナラスト雖モ、船體ニハ異狀ナキカ如キヲ以テ、單獨
襲撃ニ決シ、諸般ノ準備ヲ整ヘテ再旅順口ニ向ヒシニ、九日午前一時頃先ニ
進ミタル各艦ハ、既ニ敵艦隊ヲ襲撃シテ歸途ニ就トタルモノ、如ク、一時盛
ナリシ探照砲火ハ稍緩慢ナルニ至レリ、是ニ於テ徐ニ航行シテ敵艦隊ニ近
ツキ、同四十五分前方模糊ノ間ニ四煙突ノ一艦ヲ認メ、其ノ距離凡一千二百

米突ナルヲ推測シテ、右舷前方三十度ニ旋回シタル前部發射管ヨリ、甲種水
雷ヲ發射シ、殆ト同時ニ、等シク右舷前方三十度ニ旋回セル後部發射管ヨリ
モ、亦甲種水雷ヲ發射セシカ、此ノ前後敵ノ發見スル所トナリ、稍猛烈ナル砲
火ヲ蒙リ、敵彈ノ艦上ヲ飛過スルモノ、及ヒ附近ニ墜落スルモノ、多數アリシ
ト雖モ、一モ命中セス、南東方ニ向針シテ退却スルヲ得タリ、

斯クテ敵艦襲撃ヲ終リタル各艦ハ、總テ豫定ノ如ク集合地點ナル圓島ニ向
ヒ、第一驅逐隊ノ白雲ハ午前三時四十五分同島ニ達セシニ、同四時霞、曉、電
ノ來ルニ會シ、待ツコト一時間ニ及ヒシモ、尙朝潮ヲ見ス、仍テ霞、曉ト共ニ圓
島ヲ發シテ午後五時巡威島ニ到着シ、朝潮ト會ス、蓋朝潮ハ襲撃ヲ終リタル
後、全速力ヲ以テ南々東ニ向ヒシカ、遂ニ白雲ト相失シ、又第二、第三驅逐隊ノ
所在明ナラサリシヲ以テ、尙直進シテ二十餘海里ヲ走り、後變針シテ圓島ニ
向ヒタリシニ、一汽船ノ前方ヲ通過スルモノアルニ會シ、其ノ商船ナルカ將
タ敵ノ哨艦ナルカ識別スル能ハサリシカ故ニ、再南々東ニ航シテ之ヲ避ケ、
後轉針シテ大青島ニ向ヒ、午後二時十二分巡威島錨地ニ到達セルモノナリ、

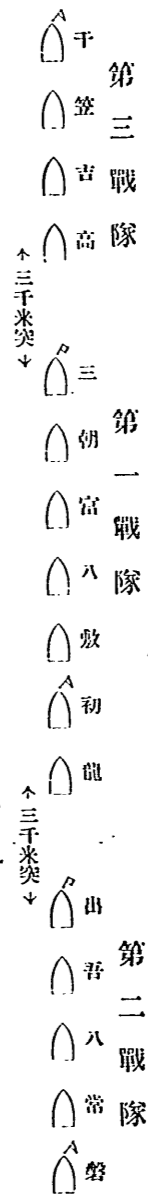
第二驅逐隊ノ雷電ハ、午前三時五十分頃相前後シテ圓島附近ニ達シ、朧ヲ待チシト雖モ來ラサリシヲ以テ、同五時編隊出發シ、午後五時四十八分巡威島錨地ニ入りテ警戒假泊ス、朧ハ襲撃後圓島ニ至リシモ、既ニ他艦ノ出發後ナリシヲ以テ、單獨巡威島ニ向ヒ、同七時三十分比到着ス、第三驅逐隊ノ薄雲ハ、此ノ日午前四時圓島ニ達シ、暫時他隊ト共ニ同處ニ漂泊セシモ、東雲、漣ヲ見ス、仍テ單獨出發シテ、午後二時巡威島錨地ニ到リ、尋テ東雲ノ來ルニ會ス、又漣ハ午前五時圓島ニ到リシモ、僚艦ヲ認メサリシカ故ニ、再出發シテ午後三時半巡威島錨地ニ達セリ、此ノ夜各隊ハ巡威島ニ警泊シ、翌十日早朝相前後シテ出發シ、午後一二時ノ交、逐次牙山灣口ニ到達ス、唯朧ハ艦首破損ノ爲メ、十二海里以上ノ速力ヲ出スコト能ハスシテ他艦ニ後レ、午後五時入港シテ、自隊ニ合シタリ、

大連灣ニ向ヒタル第四、第五驅逐隊ハ、八日午後八時三十分大連灣外南三山島ノ燈光ヲ認ムルニ及ンテ、各艦等シク襲撃準備ヲ整ヘ、乗員ヲ戰鬥部署ニ就ケ、戰鬥旗ヲ檣頭ニ翻シテ急航ス、同九時五十分灣口ニ達シテ、速力ヲ減シ、將ニ灣内ニ進入セントスルヤ、一汽船アリ、南口角外ヲ經テ灣内ニ入ラントシ、又一汽船ノ南三山島ニ接シテ灣外ニ出テントスルモノアルヲ認メ、必ス敵ノ哨艇ナルヘキヲ推定シ、少シク迂回ノ航路ヲ取リテ之ヲ避ケ、第四驅逐隊ハ西口角ノ東方ヨリ、第五驅逐隊ハ南三山島ノ西方ヨリ、等シク灣内ニ突入シ、第四驅逐隊ハ和尚島ノ南方ヨリ、左轉シテダ_ルニ_一港内ヲ搜航シ、第五驅逐隊ハ和尚島ヨリ以東以南、大崗口外ニ至ルマテ、隈ナク灣内ヲ搜索シタリト雖モ、敵ノ一艦艇ヲモ發見セス、是ヲ以テ九日午前零時十分頃逐次灣口ヲ出テ、巡威島錨地ニ向ヒ、第五驅逐隊ハ午後二時三十七分、第四驅逐隊ハ同三時四十五分、各同地ニ到着シテ警戒碇泊シ、翌十日午前七時三十分出發シテ、午後二時牙山灣ニ入港セリ、

第三節 聯合艦隊ノ戰鬪

聯合艦隊司令長官東郷海軍中將ハ、二月八日午後六時圓島ノ南東微東約三十海里ノ地點ニ於テ、驅逐隊ニ追撃ヲ命シ、是ト相分レタル後、自ラ第一、第二、

第三戰隊ヲ率非、左ノ航行序列ヲ以テ、同所ヲ進發シ、豫定ノ航路ヲ進ンテ、逐次旅順口沖ニ向フ、



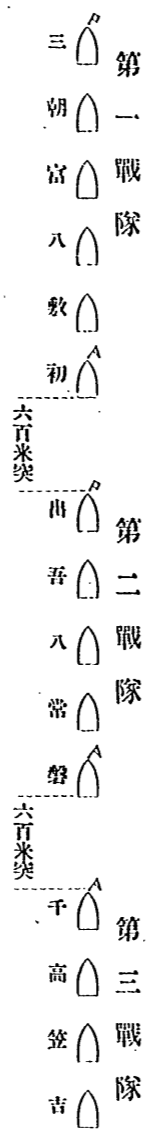
九日午前五時十七分芝罘港ノ北方約二十海里ニ達シ、北十五度西ニ變針シテ、老鐵山ニ向ヒ、同五十九分先頭ナル出羽司令官ニ向ヒ、左ノ如ク電命セリ、其ノ隊ハ午前八時ヨリ、旅順口ニ進出シテ、港外敵情ヲ偵察セヨ、若シ優勢ノ敵ニ逢ハ、本隊ニ誘致スヘシ、本隊ハ八時ヨリ、遇岩ノ南方ニ向フ、

是ニ於テ第三戰隊ハ漸次速力ヲ増加シテ前進ス、時ニ意味不明ナル無線電信ノ感應頻ナルヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ漸ク敵ニ接近セルヲ知り、各艦ニ命スルニ汽罐全數ノ使用ヲ以テシ、第二戰隊ヲシテ第一戰隊ノ後方一千米突ニ占位セシメ、各旗艦及ヒ龍田ノ外無線電信機ヲ水線下ニ收納シ、總テ戰鬥部署ニ就カシム、午前八時六分南隍城島ノ東方約九海里ニ達シ、進路ヲ東微北ニ變シテ、遇岩ニ向フ、同九時四十五分北東微東ニ當リテ、一汽船

ノ航走スルヲ認メ、之ニ向ヒテ變針セシニ、同船ハ其ノ前橋ニ日本國旗ヲ懸シ、コンシユラーナル信號ヲ掲ク、是即チ英國商船福利號ニシテ、清國芝罘駐在帝國領事水野幸吉在乗シ、前日旅順口及ヒ大連灣ヲ經航シテ、同所ニ於ル帝國居留民ヲ乗セ、今ヤ芝罘ニ向ヒテ回航ノ途ニ在ルモノナリ、滿船ノ本邦人聯合艦隊ニ會シテ、狂喜措ク能ハサルモノ、如ク、齊シク手ヲ舉ケ、手巾ヲ振り、萬歳ヲ連呼シテ去ル、是ヨリ先キ、敵情偵察ノ命ヲ受ケタル出羽司令官ハ、午前七時ヨリ戰隊ノ速力ヲ十五節トシ、漸次戰鬥速力十八節ニ増加シテ、旅順口ニ近ツキシニ、煙靄模糊ノ間ニ於テ敵艦隊ノ櫓桁ヲ認メ、稍近邇スルニ及ンテ、戰艦及ヒ巡洋艦十二隻、外ニ砲艦、水雷敷設艦等雜然トシテ港前ニ配列スルヲ見ル、其ノ内三四隻ハ昨夜我カ驅逐隊ノ爲メニ擊破セラレタルモノ、如ク、或ハ傾斜セルアリ、或ハ海岸ニ擱坐セルカ如キアリ、アスコリド及ヒ「バヤーン」型軍艦二隻ノ僅ニ其ノ附近ヲ運動シ、且驅逐艦數隻ノ陣列前ヲ徘徊スルアルノミ、他ハ皆碇泊シテ動カス、午前九時三十分第三戰隊ハ之ニ接近スルコト七千五百米突ニ及ヒシモ、敵ハ敢テ發砲ヲ試ミルモノナク、

意氣頗ル銷沈シタルノ狀アリ、是ニ於テ出羽司令官ハ、尙七千米突ニ至ルマテ之ニ近ツキ、詳細偵察シタル後、針路ヲ反轉シテ本隊所在地ニ向ヒ、同五十分東郷聯合艦隊司令長官ニ電報シテ曰ク、敵ノ大部分港外ニ在リ、我七千米突迄近ツクモ、彼砲火ヲ開カス、敵ノ數隻ハ驅逐艦ノ水雷ニ罹リタルモノ、如シ、第一、第二戰隊ハ速ニ來リテ、港外ノ敵ヲ砲撃スルコト大ニ有利ナリト思フト、此ノ時東方ニ一汽船ノ航走スルアリ、高砂命ヲ受ケ之ニ追及セシニ、露國汽船「マンチユリヤ」號ナリシヲ以テ、之ヲ拿捕シ、東郷聯合艦隊司令長官ハ龍田ヲシテ之ヲ牙山ニ護送セシメ、高砂ヲシテ其ノ戰隊ニ歸ラシム、已ニシテ第三戰隊ハ本隊ニ近接シ、同十時二十五分旗艦三笠ニ向ヒ、信號ヲ以テ、再敵情ヲ報告シテ曰ク、敵ノ主力ハ港外ニアリ、二隻以上傾斜ス、距離七千五百米突迄近ツキシモ、彼發砲セス、煙ヲ騰ケ居リシモノ五隻許リナリ、大ニ勢ナシ、今ヨリ攻撃セハ有效ト認ムト、時ニ本隊ハ遇岩ノ西方ヲ航シテ、旅順口ヲ南東ニ距ル約二十海里ノ位置ニアリ、東郷聯合艦隊司令長官ハ第三戰隊ノ偵察報告ヲ得テ、意ヘラク敵狀既ニ斯ノ如シ、是ヨリ我カ艦隊ヲシテ多少

要塞ノ砲火ニ暴露セシムルモ、敵ヲ攻撃スルニ若カスト、乃チ直ニ第三戰隊ヲシテ第二戰隊ノ後尾ニ占位セシメ、各隊ノ間隔六百米突ナル順列單縱陣ヲ制リテ、之ヲ戰鬪序列トナシ、同十一時回頭シテ敵ニ向ヒ、北西微西ニ西ノ針路ヲ進ム、其ノ序列左ノ如シ、



是ヨリ漸次速力ヲ増加シテ、戰鬪速力十五海里トナシ、信號命令ヲ傳ヘテ曰ク、今ヨリ敵ノ主力艦隊ヲ攻撃ス、食事セヨ、會合點クリツフオールド列島ト、同十一時二十四分我カ前方ニ當リテ、遂ニ「ダイヤー」型軍艦一隻ノ進行シ來ルアリシカ、暫時ニシテ退却ス、蓋偵察ノ命ヲ帶ヒテ來リシモノナラン、幾モナク敵ノ第一彈第一戰隊ノ中央右側ニ落下ス、實ニ午前十一時二十七分ナリ、尋テ退却セル先ノ露艦ヨリ、三笠ニ向ヒテ、其ノ艦尾砲ヲ發スルコト三發、皆中ラス、時ニ其ノ距離一万四千米突ノ間ニアリ、東郷聯合艦隊司令長官ハ今ヤ開戰ノ時機目睫ニ迫リ、且全線ノ戰鬪準備正ニ成レルヲ見、同三十

四分旗艦三笠ノ大櫓頭ニ軍艦旗ヲ懸シテ、以テ戦闘ヲ令シ、尋テ左ノ信號ヲ掲ク、

勝敗ノ決此ノ一戦ニアリ、各員一層奮勵努力セヨ、

此ノ時我カ艦隊ハ敵ノ集團ヲ距ルコト約一万米突ニ迫リ、稍其ノ艦型ヲ識認スルコトヲ得タリ、戦艦「ベトロパウロウスク」、「セロストーポリ」、「ポルターワ」、「ベレスウエート」、「ボベータ」、「ツエザレウ非チ」、「レトウ非ザン」、「巡洋艦「バヤーン」、「ヂイヤーナ」、「アスコリド」、「ボヤーン」、「ノーウ非ク」、「バルラーダ」、「運送船「アンガラ」號、其ノ他砲艦、驅逐艦等、或ハ蠢動スルアリ、或ハ碇泊スルアリ、又坐礁セルカ如キアリ、傾斜セルアリ、毫モ隊形ヲナサスシテ頗ル混亂ノ狀ヲ呈セリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官ハ時機正ニ熟セリトナシ、同十一時五十五分敵ヲ去ルコト約八千五百米突ノ距離ニ於テ、外方ニ約五點ノ正面變換ヲ行ヒ、針路ヲ西トナシ、敵前ヲ通過セントセリ、此ノ日天晴レ、陸岸淡霞ヲ帶ヒ、海上靜穩ニシテ微風徐ニ南方ヨリ吹キ來リ、敵艦皆艦首ヲ南西方ニ保ツ、正午聯合艦隊司令長官ノ旗艦三笠ハ、西行シテ

敵ノ艦列ヲ距ルコト約八千米突ニ至ルヤ、先ツ前部十二尹砲ヲ試發セシニ、午後零時八分ニ至リ、敵艦一齊ニ發砲ヲ開始シ、旅順口海正面ノ諸砲若モ亦之ニ應シ、同十分彼我ノ距離七千五百乃至六千八百米突タルニ及ンテ、三笠ハ其ノ右舷側六尹砲以上ノ全砲火ヲ以テ、並發射ヲ始メ、第一戦隊ノ各艦モ亦一齊之ニ倣フ、即チ二番艦朝日ハ、同十一分右舷六尹砲以上ノ砲撃ヲ開始シテ、七千乃至七千五百米突ノ距離ヨリ、「ベレスウエート」型戦艦ニ集弾シ、三番艦富士ハ、同十三分六千二百米突ノ距離ヨリ、巡洋艦「バヤーン」ヲ目的トシ、四番艦八島モ亦同十一分ヨリ同艦ニ向ヒテ、六尹砲以上ノ緩射撃ヲ始メ、五番艦敷島ハ同十四分七千米突ノ距離ヨリ、敵列ノ中央戦艦ニ並射撃ヲ加ヘ、殿艦初瀬次テ發砲ヲ開始シ、第二第三戦隊モ亦逐次左轉シテ、第一戦隊ノ通跡ニ入り、各隊協應シテ、猛烈ナル砲撃ヲ持續ス、敵ハ依然錨地ノ位置ヲ動かス、唯巡洋艦「アスコリド」ハ敵艦隊集團ノ東方ニアリテ、稍活潑ニ運動シ、巡洋艦「バヤーン」ハ中央ニ位置シテ徐ニ動キ、又巡洋艦「ノーウ非ク」ハ西方ニ在リテ、挺進我カ艦隊ニ向ヒ、共ニ防戦頗ル努メ、諸砲臺ノ砲火モ漸次猛烈ヲ加ヘ、

黄金山砲臺ノ如キハ榴弾砲、鷄冠山、蠻子營等ノ砲臺ハ直射砲、榴弾砲ノ混射ヲ以テ、其ノ艦隊ト協力シ、以テ我カ艦隊ニ當レリ、同零時十一分三笠ヨリ發セル十二尹彈、ボペーダ型戰艦ニ命中シタルモノ、如ク、濛々タル黒煙ヲ揚クルト同時ニ、其ノ中央煙突ヨリ盛ニ白煙ヲ噴出セルヲ始メトシ、同十五分朝日ノ前部十二尹砲ヨリ發セル一彈、ペレスウエート型戰艦ニ命中爆發シテ黒煙ヲ揚ケ、其ノ他各艦ヨリ發射セル彈丸、或ハ命中シテ火災ヲ起サシメ、或ハ附近水面上ニ炸裂シテ水柱ヲ騰ケ、爆煙敵艦隊ヲ掩フテ艦型爲メニ識別スル能ハサルニ至ル、而テ敵彈モ亦我カ艦隊ノ附近ニ落下スルモノ稍繁ク、同零時十一分ノ頃三笠ノ右側ニ墜落シタル十吋大ノ一彈、反跳シテ大櫓檣樓下ニ破裂シ、彈片四邊ニ飛ヒ、後艦橋上ニアリシ第一艦隊機關長海軍機關大監山本安次郎第一艦隊參謀海軍大尉松村菊男第一艦隊附主理吉村幹三郎、海軍少尉候補生澤本齋及ヒ下士卒三名ヲ傷ケ、後艦橋ノ一部ヲ破壊ス、幾モナクシテ一彈又三笠ノ大櫓ヲ擦過シ、其ノハリヤードヲ切斷シ、橋頭ニ掲ケタル戰鬪旗ヲ海上ニ墜シ、新ニ掲ケタル戰鬪旗モ亦須臾ニシテ一彈ノ

爲メニ大孔ヲ穿タレタリ、同零時十五分ノ頃交戰漸ク激烈ニシテ、敵ノ彈著モ亦稍正確ナルニ至リ、饅頭山砲臺ヨリ發射セル巨彈、二十四拇若クハ二十八拇富士ノ前艦橋ニ命中シテ、射擊號令ヲ司レル砲術長海軍少佐山中幹ヲ殲シ、從屬海軍少尉候補生南摩龍夫、海軍上等信號兵曹小野光長及ヒ卒二名ヲ傷ケ、前部ケーシングヲ右方ヨリ左方後部ニ貫キ、煙突ヲ破リ、此所ニ爆裂シテ左舷側ニ收置セル「カッター」一隻ヲ破壊シ、其ノ後方ニアリタル砲臺長海軍中尉三浦容夫ヲ殲シ、下士卒五名ヲ負傷セシム、尋テ七、五拇砲ノ一彈、後部斥候塔ニ中リテ貫ク能ハス、前方ニ反跳シテ、後部シエルターデツキ上ヲ飛ヒ、海軍少尉候補生伊藤完ヲ傷ケ、無線電信機ノ引入口ヲ破損ス、同零時十六分敵砲臺ヨリ發射セル彈丸、朝日ノ艦首ヲ距ル約十米突ノ附近ニ落ツ、蓋敵ノ射擊軍紀ハ、初メ稍嚴正ナラスシテ多ク亂發シ、其ノ小口徑砲彈ノ如キハ、概ネ我ニ達セサリシカ、此ノ頃ニ及ンテ、著彈漸次良好トナリ、我カ艦隊各艦ノ附近ニ墜落スルモノ擧ケテ數フヘカラス、我カ艦隊ハ尙猛撃ヲ續行シテ敵ニ當リ、同十九分富士ノ前砲塔ヨリ發射セル十二尹ノ一彈、巡洋艦「バヤ

「ン」後甲板ニ命中シテ火災ヲ起サシメ、又他ノ一彈其ノ東隣ナル一艦ニ命中シタルモノ、如シ、是ヨリ先キ八島ハ敵艦ノ爆煙ニ包マレタルカ爲メ、其ノ距離ヲ測定シ難ク、且艦型ノ識別ニ苦ミタルヲ以テ、中ニ就テ稍好目標タリシ四本煙突ノ「バヤーン」ニ集弾シ、遂ニ同艦ヲシテ大火災ヲ起サシム、其ノ他ノ各艦モ亦適宜ノ敵艦ヲ選ンテ發射シ、六尹砲彈ノ如キ、前後相接シテ命中炸裂シ、或ハ十二尹砲彈モ敵砲臺ニ達シテ炸裂セルモノアリ、或ハ港内ニ反跳シテ遠ク爆煙ヲ陸上ニ擧クルモノアリ、第二、第三戰隊モ亦奮戦シ、砲戰最劇烈ヲ極メタリ、已ニシテ第一戰隊ノ先頭ハ老鐵山麓ニ近ツキ、射程漸次遠サカリシヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ同二十分左方八點ノ正面變換ヲ命シ、各艦逐次回頭シテ旗艦ニ準フ、然ルニ敵砲臺ノ一部ハ此ノ回頭點ヲ以テ、最射撃ニ有利ナル位置ト認メタルカ如ク、頗ル集弾ニカメタルヲ以テ、敵彈我カ近距離ニ雨注シ、同二十二分一彈初瀬ノ右舷後方ヨリ來リテ、前部「ボート」デツキニ命中シ、前部最上艦橋ニアリシ航海長海軍中佐千坂智次郎及ヒ前部砲臺指揮海軍中尉村越八郎外下士卒三名ニ輕傷ヲ負ハセ、次テ

同二十五分十二時大ノ一彈右舷後部ニ命中シ、彈片司令官公室ヲ貫キテ下甲板ニ入り、夥シキ損害ヲ與ヘ、海軍少尉候補生梶村文夫及ヒ下士一名ヲ殪シ、下士卒九名ヲ傷ツケタリ、是ニ於テ負傷者ヲ救護スルト同時ニ、危險物ヲ放棄シ、防火ニ從事シテ、直ニ鎮火スルヲ得タリ、同三十分十五分海軍少尉島ノ前部煙突ニ命中炸裂シテ、之ヲ壞リ、其ノ彈片四邊ニ散亂シテ、フオールデリツク及ヒ前艦橋附近ヲ傷ケ、航海長海軍少佐釜屋六郎及ヒ海軍少尉林清二竝ニ下士卒十五名ヲ傷ゲタリ、是ヨリ先キ、第二戰隊ノ各艦ハ、午後零時七分ヨリ逐次第一戰隊ノ通跡ヲ進ンテ、正西ノ針路ニ入り、同十二分ノ頃、好射程ニ達シタルヲ以テ、同艦隊司令長官ノ旗艦出雲ハ、先ツ八千五百米突ノ距離ヨリ、併列重疊セル敵艦隊ノ中堅ニ向ヒテ、前後八尹砲ノ砲撃ヲ開始シ、吾妻ハ同十四分八千八米突ノ距離ヨリ、「ボベーダ」型戰艦ニ八尹砲ノ緩射撃ヲ加ヘ、八雲モ亦殆ト同時ニ、前後八尹砲ノ發砲ヲ開始シテ、距離約九千米突ノ一戰艦ヲ緩射シ、常磐ハ同十五分一萬米突ノ距離ヨリ、敵ノ集團ヲ砲撃シ、磐手ハ同時八千八米突ノ距離ヨリ、敵艦

列ノ中央ニ行動セル巡洋艦「バヤーン」ニ向ヒテ、各八尹砲ノ緩射撃ヲ始ム、須臾ニシテ各艦稍良好ナル彈著ヲ見ルニ及シテ、逐次六尹砲以上ノ並射撃ニ移リ、第一戰隊ノ砲火ト相俟チテ、砲戰愈熾烈トナリ、同十八九分ノ頃、殆ト酣戰ノ極ニ達シ、各艦己ノ彈著ヲ識別スル能ハサリシト雖モ、我カ彈丸或ハ敵艦側ノ水面ニ炸裂シテ水柱ヲ騰ケ、或ハ敵艦ニ命中爆發シテ、黑煙ヲ迸ラシムルモ、前後相踵キ、一時爆煙濛々トシテ、敵ノ艦列ヲ掩蔽シ、距離ノ測定甚困難ナルニ至レリ、幾モナクシテ、第一戰隊左方ニ回頭シテ、逐次戰線外ニ避クルヤ、敵ノ一部ハ主トシテ、第二戰隊ニ砲火ヲ注キ、彈丸ノ其ノ隊列附近ニ墜落スルモノ頗ル多キヲ加ヘシカ、各艦未タ一ノ損害ヲ蒙ラス、同二十二分出雲ハ距離七千米突ニ於テ、益有効ナル砲火ヲ續ケ、吾妻ハ七千米突乃至六千米突ニテ「ペトロパウロウス」型戰艦ニ砲火ヲ移シ、八雲ハ敵艦「ノーウ非ク」ノ獨リ西方列外ニ挺進勇戰スルヲ見テ、之ニ猛火ヲ注キ、磐手ハ東方ニ徐行スル「アスコリド」ニ砲撃ヲ加ヘ、常磐モ亦暫時「アスコリド」ヲ猛射シ、轉シテ「ペトロパウロウス」型ノ二戰艦「ボベード」型ノ二戰艦及ヒ「バヤーン」ヲ猛撃

シテ、屢命中セリ、同二十五分頃ニハ、彼我ノ距離五千米突内外ニ近ツキ、我カ砲撃愈、其ノ効果ヲ顯セルニ反シ、敵艦隊ノ砲火ハ漸次衰フルニ至リシカ、同二十六分上村第二艦隊司令長官ハ、第一戰隊ニ準シテ左方ニ回頭ヲ命シ、各艦逐次南西ノ針路ニ入ルヤ、敵ノ砲臺及ヒ艦隊ノ一部ヨリ注射セル彈丸、尙屢隊列ノ前後左右ニ落下シ、一彈吾妻ノ大檣頭ニ掲ケタル戰鬪旗ヲ貫キ、一彈磐手ノ右舷後方海面ヲ打チテ炸裂シ、彈片飛ンテ舷側ニ數ヶ所ノ破口ヲ穿チ、他ノ彈片後砲臺ニ命中シテ、砲臺長海軍中尉高橋節雄及ヒ砲臺附海軍少尉候補生青木貞之助、砲塔長海軍上等兵曹大隅爲吉郎竝ニ下士卒七名ヲ傷ケタリ、八雲モ亦此ノ時前部上檣樓附近ニ一彈ヲ受ケ、距離測定ノ任ニアリシ海軍少尉候補生桑原岩次郎重傷ヲ負フ、幾モナク五千八百米突ノ射程ニテ、八雲ノ前部八尹砲ヨリ射出セル一彈、恰モ左舷ニ回頭シテ、艦首ヲ東方ニ向ケタル「ノーウ非ク」ノ中央部ニ命中炸發セシカ、彼尙之ニ屈セス、益前進シテ、我カ戰列ヲ距ル約三千二百米突ニ近ツキ、奮闘セシモ、遂ニ我カ軍ノ猛撃ニ遭ヒ退却セリ、此ノ際同艦ハ魚形水雷ヲ發射シタルモノ、如ク、同三十

分ノ頃磐手ノ將ニ新針路ニ回頭セントスルトキ、一水雷其ノ前方ヲ通過セリ、尋テ磐手ハ、又「アスコリド」ニ向ヒテ砲火ヲ注キ、同三十二分後部八尹砲ヨリ發セル一彈、其ノ大橋ノ後方舷側ニ命中炸裂シテ、爆煙ヲ揚ク、第三戰隊ハ彼我ノ交戦酣ナル午後零時十五分ノ頃、戦線ニ入り、前續隊ニ準ヒテ、各艦逐次發砲ヲ開始シ、千歳ハ九千米突ノ距離ヨリ、前部八尹砲ヲ以テ、敵艦列ノ中央戰艦ヲ緩射シ、高砂ハ恰モ此ノ時我ニ對シテ側面ヲ顯セル「バヤーン」ヲ目的トシ、笠置ハ八千米突ノ距離ヨリ、「セワストーポリ」型戰艦ヲ目的トシ、各前部八尹砲ノ緩射ヲ加ヘ、吉野モ亦八千米突ノ距離ヨリ、最近ノ一艦ヲ砲撃シ、稍好射程ヲ得ルニ及ンテ、各艦十二拇砲以上ノ並射撃ヲ行ヒ、敵艦又附近ニ落下スルモノ多シ、同十八分一彈笠置ノ右側約五十米突ニ於ル水面ヲ打チテ炸裂シ、彈片艦内ニ飛散シタルモ、幸ニシテ死傷ナク、尋テ又十二吋大ノ一彈、同艦ノ右舷側水上ニ炸裂シテ、彈片右舷「子ツチング」ヲ傷ケ、上甲板ニ大孔ヲ穿チ、附近ノ器物ヲ破壊シ、遂ニ下甲板ニ入りテ止マレリ、此ノ時高砂ハ「アスコリド」ノ單獨東方ニ距レテ、稍我ニ接近シ來ルヲ認メ、五千八

百乃至五千四百米突ノ距離ヲ以テ、之ヲ猛撃シ、尋テ千歳モ亦之ニ砲火ヲ注キ、高砂ヨリ發セル十二拇砲ノ一彈、「アスコリド」ノ第二煙突ニ命中破裂シ、尋テ發セル前部八尹砲ノ一彈、其ノ最前煙突ニ命中シテ、黑煙ヲ揚ク、是ヨリ「アスコリド」ノ砲火漸次衰ヘタルモノ、如シ、同二十四分千歳ハ「ノーウヰク」ノ近ツキ來ルヲ見テ、七千米突ノ距離ヨリ之ヲ猛撃シ、高砂ハ「バヤーン」ニ砲火ヲ移シテ、六千三百米突ノ距離ヨリ之ヲ砲撃ス、已ニシテ第一、第二戰隊ハ逐次外方ニ回頭シテ、戦線ヲ避クルヤ、敵艦隊ノ砲火ハ稍衰ヘタリト雖モ、敵砲臺ノ一部ハ第三戰隊ニ集彈セルモノ、如ク、敵艦附近ニ雨注シテ、同二十五分ヨリ數分時間ハ最猛烈ヲ極メタリ、會東鄉聯合艦隊司令長官ヨリ命令アリ曰ク、第三戰隊ハ彈著距離外ニ出テヨト、是ニ於テ出羽司令官ハ同三十七分左方八點ノ一齊回頭ヲ命シ、各艦等シク南方ニ向針シテ戰ヲ避ク、斯ノ如クニシテ、我カ艦隊ノ各隊ハ、逐次戦線ノ外方ニ退避シ、尙有効ナル緩射撃ヲ持續シタリシカ、敵艦隊トノ距離漸ク遠隔スルニ及ンテ、各砲火ヲ收メ、同四十五分各艦三笠ニ倣ヒテ、戰鬪旗ヲ撤シ、第一、第二戰隊ハ左先鋒鱗次縱陣ヲ

以テ、第三戰隊ハ單横陣ヨリ漸次單縱陣ニ移リテ、共ニ外洋ニ出ツ
 此ノ時ニ當リ、損害ヲ受ケタル敵艦隊ハ、漸次港内ニ遁レ入ルヲ認メシト雖
 モ、東郷聯合艦隊司令長官ハ尙敵驅逐艦ノ追躡センコトヲ慮リ、高速力ヲ用
 ヒ、且偽航路ヲ取ルノ必要ヲ感シ、午後二時十分ヨリ速力ヲ十四海里トナシ、
 第一、第二戰隊ハ先ツ南方ニ退航シタル後、山東高角ニ向ヒ、第三戰隊ハ隨意
 ノ針路ヲ取リテ、各豫定ノ集合地點ナル韓國西岸クリツフオールド島ニ向
 ハシム、同三時四十五分威海衛ノ北微西約三十五海里ノ位置ニ達シテ、速力
 ヲ十三海里ニ減シ、出羽司令官ニ向ヒ電報スルニ、午後四時ニ於ル第一、第二
 戰隊ノ位置ヲ以テシ、又夫ヨリ十三海里ノ速力ヲ以テ、南六十度東ニ行進シ、
 午後八時ヨリ十二海里ノ速力ニ減シ、南三十五度東ノ針路ヲ進ミ、正子ヨリ
 南七十五度東ニ變針スヘキヲ以テス、同五時四十分上村第二艦隊司令長官
 ヲリ信號アリ、曰ク、第二戰隊損害少シ、明早朝ヨリ聯合艦隊ヲ以テ、再旅順方
 面ヲ攻撃セラレテハ如何、意見申上クト、然レトモ東郷聯合艦隊司令長官ハ、
 最早港外敵アラサルヘキヲ信シタルヲ以テ、一先ツ牙山ニ至リ、更ニ行動ヲ

爲スヲ得策ト認メ、其ノ旨ヲ答電シ、豫定ノ針路ヲ東航セリ、
 是ヨリ先キ、出羽第一艦隊司令官ハ、午後一時第三戰隊ヲ率非テ旅順口外ヨ
 リ南方ニ退航スルヤ、偶、右舷艦首ニ當リテ、一商船ヲ認メ、吉野ニ命シテ、之ヲ
 臨檢セシム、同五十分吉野ハ之ニ追及シ、臨檢ニ從事セシカ、出羽司令官ハ旅
 順口ヲ距ルコト遠カラサル海上ニ黄昏マテ停マルノ不利ナルヲ慮リ、同二
 時高砂ヲ派シテ、吉野ニ臨檢中止ヲ傳達セシム、幾モナクシテ吉野ヨリ報告
 アリ、曰ク、臨檢ノ結果同船ハ上海ヨリ、直隸省東岸秦皇島ニ行カントスル諸
 威商船、ロビデンス號ニシテ、戰時禁制品ヲ搭載セサルコトヲ確メシカ故ニ、
 之ヲ放免セリト、依テ兩艦ニ歸來ヲ命ス、同二時四十六分ニ至リテ、又一商船
 ヲ左舷艦首ニ認メシヲ以テ、出羽司令官ハ笠置ヲシテ單獨前針路ヲ進マシ
 メ、千歲ニ命シテ、往テ之ヲ臨檢セシメタルニ、諸國商船ハ一ムス號ニシテ、等
 シク禁制品ヲ有セサリシヲ以テ、之ヲ解放セリ、同三時三十分高砂列ニ入り、
 尋テ各艦舊位ニ復シ、是ヨリ山東高角沖ヲ經テ、豫定集合地點タル牙山灣ニ
 向フ、同九時三十五分東郷聯合艦隊司令長官ハ、出羽司令官ニ左ノ電命ヲ與

フ、

其ノ隊ノ一艦ヲ今ヨリ八口浦ニ派遣シ、臺南丸、臺中丸ノ外、特務隊ノ艦船、
竝ニ第一、第二十艇隊、又江都丸ハ階修理了リ次第、何レモ牙山ニ回航スヘ
キ様、電報セシムヘシ、又艦隊用運送船ヲ牙山ニ送ル様、佐世保鎮守府ニ電
報セシムヘシ、

百八十二

依テ出羽司令官ハ笠置ニ命シテ、此ノ任務ニ當ラシム、
翌十日午前八時第一、第二戰隊ハ、シリツフォールド島ヲ前方水際ニ見テ、牙
山灣口ニ向針スルノ際、偶、左方遙ニ第三戰隊ノ來航スルヲ認ム、乃チ東郷聯
合艦隊司令長官ハ之ヲ第二戰隊ノ後尾ニ入ラシメ、各戰隊ノ間隔六千米突
ナル單縱陣列ヲ制リテ行進ス、同十時二十六分第四戰隊ノ旗艦浪速ヨリ、仁
川ノ敵艦二隻共殲滅シ、我カ軍大勝ヲ得テ、一ノ損害ナシトノ電報アリ、尋テ
牙山灣外哨戒ノ任ニアリシ軍艦千早ヨリ、更ニ仁川沖海戦ノ概況ヲ聞キ、又
第四驅逐隊ノ入港スルニ會シ、大連灣ニ敵影ナカリシコト、及ヒ第五驅逐隊
ハ後ヨリ來ルコトノ報告ニ接シ、且第一、第二、第三驅逐隊ノ襲撃ニ關スル狀

況ノ概略ヲ確ムルヲ得タリ、

次テ第一、第二、第三戰隊ハ、午後二時牙山灣ニ達シ、同三時五十分迄ノ間ニ於
テ、各艦逐次投錨ス、第四戰隊及ヒ淺間、千代田、各驅逐隊、第九、第十四艇隊、日光
丸、春日丸、金州丸、大連丸、小樽丸、平壤丸、玄海丸等既ニ碇泊シ、龍田モ亦前日遇
岩附近ニ於テ拿捕セル露國商船「マンチユリヤ」號ヲ護送シ來リテ、已ニ在泊
ス、既ニシテ千代田ハ仁川ノ偵察ニ赴ケリ、是ニ於テ東郷聯合艦隊司令長官
ハ各戰隊、各驅逐隊ノ戰鬪狀況ヲ詳ニスルコトヲ得、全艦隊ノ將卒擧リテ戰
捷ヲ祝シ、天皇陛下ノ萬歲ヲ三唱ス、

翌十一日東郷聯合艦隊司令長官ハ、大本營ニ戰況ヲ報告シ、又玄海丸ヲシテ、
旅順港外海戦ノ死傷者ヲ載セ、佐世保ニ向ケ出發セシメ、且各艦ニ命シテ、速
ニ損所ニ應急修理ヲ加ヘ、炭水糧食等ヲ補充シ、來ルヘキ第二次行動ノ準備
ヲ行ハシム、

越エテ十三日、聯合艦隊司令長官海軍中將東郷平八郎ニ左ノ勅語ヲ賜フ、
聯合艦隊ハ陸兵韓國上陸ノ任務ヲ完クシテ、其ノ西岸ヲ掃ヒ敵艦ヲ旅順

ニ撃チテ其ノ數隻ヲ破リ氣勢大ニ振フト聞ク
朕太タ之ヲ嘉ミス將士益々奮勵セヨ

次テ皇后宮大夫子爵香川敬三八、左ノ皇后陛下ノ令旨ヲ傳フ、

我聯合艦隊ハ仁川及ヒ旅順ニ於テ大ニ敵艦ヲ撃破シタル趣 皇后陛下

ノ懿聞ニ達シ深ク感賞アラセラル

又皇太子殿下ヨリ左ノ令旨ヲ賜フ、

仁川旅順ニ於ケル海戦ノ捷報ニ接シ我艦隊ノ機敏ニシテ勇敢ナル行動

ヲ歎賞ス

十四日東郷聯合艦隊司令長官ハ、勅語ニ對シ、左ノ奉答文ヲ奉ル、

臣平八郎

謹テ奏ス

聯合艦隊カ初度ノ作戰ニ於テ勝利ヲ獲タルハ

大元帥陛下ノ御威徳ニ依ルモノニシテ之ニ對シ優渥ナル

勅語ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス臣等益々奮勵殘敵ヲ海上ニ掃蕩シ以テ

聖旨ニ副ハンコトヲ期ス、臣平八郎謹テ奏ス

次テ皇后陛下ノ令旨ニ對シ左ノ奉答文ヲ奉ル

聯合艦隊初度ノ戰勝ニ對シ優渥ナル

嘉詞ヲ賜ハリ臣等感激ニ堪ヘス今後尙益奮勵シテ有終ノ全勝ヲ收メン

コトヲ期ス願クハ

宸襟ヲ安シ給ハラシコトヲ臣平八郎謹テ奏ス

又皇太子殿下ノ令旨ニ對シ、左ノ奉答文ヲ奉ル

聯合艦隊初度ノ戰勝ニ對シ優渥ナル

令旨ヲ賜ハリ感激ニ堪ヘス尙今後奮勵ヲ以テ

令旨ニ副ハンコトヲ期ス謹テ奉答ス

第四節 露國艦隊及ヒ砲臺

露國東洋艦隊ハ、是ヨリ先キ、時局ノ切迫セルニ鑑ミ、艦隊司令長官海軍中將

オスカル、ウヰ井クトロウヰ井ツチ、スタルクノ指揮ノ下ニ、日々艦隊ノ訓練ヲ行

ヒ、二月三日ノ如キ、スタルク中將ハ、修理中ナル一艦「セリストーポリ」ヲ除キ、他ノ戰闘艦六隻、巡洋艦六隻、水雷敷設艦二隻ヲ率非テ、午前旅順口ヲ出發シ、近海ヲ遊弋シテ、諸種ノ教育訓練、艦隊運動等ヲ試ミタルモノ、如ク、翌四日午後歸リテ、黄金山前ニ配列碇泊セリ、然ルニ同八日ニ至リ、清國芝罘駐在水野領事、在旅順帝國臣民引揚ケノ爲メ、英國商船福利號ニ乗シテ同港ニ赴キ、芝罘ニ出張セル海軍中佐森義太郎軍港司令官海軍少將ニコライ、ロマーノウ非ツモ此ノ時警部ニ扮シテ同行セリチ、グリーヨーウエ其ノ他高級官憲ヲ歴訪シ、後在留帝國臣民一同ヲ乗セテ退旅シタルヲ以テ、露人ハ一般頗ル危惧ノ念ヲ抱キシト雖モ、此ノ際總督等二三ノ外前日露國駐節帝國公使ノ召還セラレタルコトヲ知ルモノナカリシカ如ク、此ノ日ハ恰モ一般ニマリヤト命名セル婦人祝日ナルヲ以テ、上下共ニ之ヲ祝シ、艦隊ノ將卒過半陸上ニアリ、而シテスタルク中將夫人モ亦此ノ名ヲ冒セルカ故ニ、陸上官舎ニ舞踏會ヲ催シ、普ク海陸軍ノ貴賓ヲ招待シ、歡ヲ盡シテ夜半ニ及ヒ、砲聲ヲ港外ニ聞キシト雖モ、此ノ夜軍艦「レトウ非ザン」ニ於テ、夜中演習射撃ノ舉アルヲ聞キ、疑念ヲ抱クモノナカリシカ、須臾ニシ

テ砲聲再起リ、刻一刻激甚ヲ加ヘ、尋テ警戒ノ號音アルニ及ンデ、始テ我カ驅逐隊ノ夜襲セルモノナルヲ知り、衆皆驚愕シ措ク所ヲ知ラス、各先ヲ争ウテ其ノ勤務艦廳ニ歸リ、軍隊ハ急速警戒線ニ進出シ、應戰センコトヲ努メタリト雖モ、或ハ列兵ノ隊伍ヲ離ル、者アリ、或ハ彈藥ノ携帶ヲ忘ル、モノアリ、殊ニ二三ノ砲臺ノ如キハ、彈丸火藥ノ備ナキ等、其ノ防備未タ全ク成ラザリシヲ以テ、我カ軍若シ急ニ陸戰隊ヲ上陸セシムルカ如キコトアラハ、之ヲ防クノ策ナキヲ思ヒ、孰モ戰々競々ノ間ニ一夜ヲ過セリト云フ、又港外ノ艦隊ハ、數日來常ニ汽罐ニ火ヲ貯ヘ、又咄嗟ノ急ニ應センカ爲メ、彈藥等ヲ砲側ニ準備スル等、多少意ヲ用フル所アリ、且八日ノ夜ハ、驅逐艦四隻ヲ以テ、沖合ヲ哨戒セシメタリシト雖モ、我カ襲撃ヲ受クルカ如キハ、毫モ豫想セザリシ所ナルヲ以テ、各艦等シク碇泊燈ヲ掲ケ、舷窓ヲ鎖サス、晏然トシテ碇泊シ、唯「レトウ非ザン」ノミハ港外哨戒ノ驅逐艦ヲ敵艦ニ擬シ、探海燈ヲ點シテ、夜中操練ヲ行ヒツ、アリ、是ヲ以テ我カ驅逐隊ノ襲撃ヲ受クルヤ、全艦隊皆不意ニ出テ、周章狼狽始ト爲ス所ヲ知ラス、我カ第一驅逐隊ノ襲撃ヲ終フル頃、漸ク

ニシテ各艦探海燈ヲ點出シ、發砲ヲ開始シテ我ニ當リ、而テ曩ニ港外哨戒ノ任ニアリシ四隻ノ驅逐艦ハ、我カ驅逐隊ノ來襲ヲ發見シテ、之ヲ急報センカ爲メ、倉皇入港シタルモ及ハス、早ク既ニ我カ水雷ノ爆聲ヲ耳ニシタリト云フ、斯クテ敵艦隊ハ防戦頗ル努ムル所アリシト雖モ、其ノ効ナク、猛烈ナル數次ノ襲撃ニ遭ヒ、戦艦ツエザレウ非チ、同レトウ非ザン、巡洋艦「バルラーダ」ノ三隻ニハ既ニ水雷命中シ、ツエザレウ非チハ舵機室ヲ破壊セラレテ浸水シ、最初右舷ニ傾キシカ、後左舷ニ反傾シテ、傾斜十八度ニ及ヒ、レトウ非ザンハ水線下唧筒室ノ側方ニ大孔ヲ生シ、バルラーダハ中央水線下汽機室ノ附近ヲ毀傷セラレタルモノ、如シ、

損傷ヲ受ケタル三艦ハ他艦ノ補助ヲ得テ、徹夜防水ニ從事シ、或ハ曳船ニ依リ、或ハ獨力戦列ヲ離レテ、内港ニ入ランコトヲ努メタリシモ能ハス、レトウ非ザンハ港口西側威遠砲臺下ニ坐礁シ、ツエザレウ非チハ舵機損傷ノ爲メ、操舵意ノ如クナラス、港口ニ於テレトウ非ザンヲ避ケントシテ、遂ニ水道ノ東側ニ膠著シ、バルラーダモ亦港口附近ニ擱坐シテ、各僅ニ沈没ヲ免ル、ヲ

得タリト云フ、

是ノ如ク、露國艦隊ハ戦艦二隻、巡洋艦一隻ヲ損傷セラレ、全艦隊混亂ノ狀ニ陥リ、其ノ秩序未タ回復スルニ至ラサリシニ、同九日ノ午前、其ノ錨泊位置ニ於テ、更ニ猛烈ナル我カ艦隊ノ砲撃ヲ受ケ、茲ニ再多大ノ損害ヲ蒙レリ、此ノ日港前ニ配列シテ、戦闘ニ從事セシ艦隊ハ、戦艦「ペトロパウロウスク」(司令長官スタル)

ル中「ポルターワ」(セロストーポリ)、「ペレスウエート」(ポベード)(司令官侯爵ウフトムスキ)、少將巡洋艦「バヤーン」(ダイヤーナ)、「アスコリド」(ボヤーリン)、「ノーウ非ク」(運送船)、船「アンガラ」號及ヒ第一驅逐隊司令海軍大佐ニコライ、アレキサンドロウ非

ツチ、マツ―セツ非ツチ、第二驅逐隊司令海軍中佐アナトリ―、アウグエストウ非ツチ、ギンテルノ指揮下ニアル驅逐艦十五隻ニシテ、前夜損傷ヲ受ケタル、戦艦ツエザレウ非チ、レトウ非ザン及ヒ巡洋艦「バルラーダ」ハ、各其ノ擱岸ノ位置ニ在リテ、砲火ヲ開キタルモノ、如ク、海正面九箇所ノ砲臺モ亦之ニ加ハリ、就中黄金山高低兩砲臺、鷄冠山、饅頭山、蠻子營砲臺等最奮戦セルモノノ如シ、而テ此ノ戦闘ニ於テ、ペレスウエート及ヒセロストーポリヲ除クノ